

「さんか・さろん」ニュース

4月のさろん 『私の仕事』 シリーズ2

「市民の意見を引き出し実行まで繋げる“ワークショップ”のいろは」

講師：野口智子（ゆとり研究所）

「さんか・さろん」は新シリーズで会員の方々に順に『私の仕事』を語っていただいています。2回目は、スローライフ・ジャパン事務局長でもある野口智子さん（ゆとり研究所）でした。（2017年4月18日）

.....

1 ワークショップとは何か？

ワークショップは（以下WS）「工房」「作業場」など“場”を表す言葉。講師から一方的に受け取るだけの講義やセミナーとは違い、参加者が意見交換や体験を通じて、知識・技術を学びとる。研究・創作活動・まちづくりなど問題解決や合意形成の場として活用される。種類もいろいろだが、自分の場合は地域を活性化するための実践のための、またその人づくりのために行っている。

2 ワークショップで進めた事例

※写真を見ながら説明。

- ①奈良県十津川村谷瀬集落「ゆっくり散歩道」（人口3488人・谷瀬集落57人）集落を他所の人に歩いてもらい、気に入ったら移住に繋がりたい。ここではWSではなく“寄合”と呼んだ。2013年から。「ゆっくり散歩道」を整備し、展望台、水車、休憩所「こやすば」、田舎体験ハウス「玉岡」などもできる。交流「ゆっくり体験」を実施、「純米酒 谷瀬」が作られ、「吊り橋ウエディング」も。
- ②和歌山県紀の川市「フルーツ・ツーリズム」（人口64,129人）有数の果物産地。しかし市域全体が果物工場というハード寄り。フルーツをテーマに身近な資源を磨き交流・文化育成を。2014年からほぼ月1回のワークショップ。「ふるうつ茶会」「ふるうつ川柳」「フルーツカレンダー」「フルーツグルメマップ」「フルーツ料理コンテスト」など住民主体で多くの動きが。2017年3月「紀の川フルーツ体験！ふるふる博覧会 ぶる博」も開催。

3 私のやり方

課題やお金など、難しいことはあとから考える。楽しい、すぐにやれることからまず手を付ける。



よくやるWS手法は・・・進行役と時計係を決める→やりたいことを書き出す4つ→集めて混ぜる→4枚ずつ分ける→読み上げて気に入ったものにことばを添える→すべてを並べて人気投票する。→「すぐ」「少し先」「いつか」に分ける→それぞれで人気投票→やることが決まる→「すぐ」のこのために自分ができることを書き出す→いつまでに誰がやるか公にする→スケジュールにする→宿題を出す→次の日を決める

4 い・ろ・は

これは小さなことばかりだが、大事なツボ。この辺が上手くいかないと、しんどいWSとなり、結果「地域づくりってつらい」となってしまうので注意しよう。

- ①座る場所に気を付ける②カタカナを使わない
- ③ポストイットを使わない④弱者にあわせる
- ⑤空間を動かす⑥飲食しながら⑦居心地よく
- ⑧必ず全員が話す⑨お客様にしない⑩大笑いする

.....

WSを既実践している方で、さらに学びたいという初めての参加者が目立った。“いろは”のところは特に新鮮な視点と好評だった。アカデミックなWS手法よりも、もっと基本的なことだからだろう。「さろん」の後、HPに野口さんが詳しく書かれている。↓

<http://noguchi-tomoko.com/modules/yutoriaruki/>